

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月9日

(学) 四恩学園 四恩幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・和顔施…優しい笑顔、思いやりの心を持つ子
- ・合掌 …感謝の気持ちを素直に伝えられる子
- ・聞法 …話を聞き学び合う子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

質の高い教育の実践を目指す

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育の質向上のために、研修制度を充実させる	A	外部研修を受講しやすい環境作りに成功し、多くの研修に参加することができた。(マーチング研修、ピアノ研修、特別支援教育研修、ICT教育研修、応急救護研修、木育研修、教員実技研修、マネジメント研修、新人研修) しかし非常勤職員の研修はオンライン受講のためフィードバックが必要。
2	特別支援教育のための園内支援体制を整備する	A	発達保育講師を配置し、家庭や関係機関との連携を図り、個別の指導計画を作成した。特別な支援を要さない家庭でも、子育ての不安など、気軽に面談が行えるような体制を整えることができた。また、専門機関との連携を密に行い、園内で情報共有を行った。 パンフレットの作成を行い、HPに掲載をした。
3	園児のための環境整備	A	園庭や階段のゴムチップ化をし、怪我のリスクを軽減することができた。 砂場の殺菌消毒を行った。 おもちゃの消毒用に除菌ボックスを複数個購入した。 また、預かり保育や延長保育で使用する遊具の購入にも力を入れた。 園児が安心して遊べるように、遊具点検を毎月行い、大型遊具は専門業者に整備をしてもらった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、園児一人一人に寄り添った質の高い教育を展開することができた。また、さらなる質の向上に向けた課題も明確となり、来年度取り組む内容の把握することができた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境	園庭や室内の環境、教育・保育活動において、今年度の課題や改善点を話し合い、より良い環境の構成に取り組む。また、子どもの興味関心に合わせて園庭や教室の環境を構成していき、子どもたちが自発的に活動できるような空間を整える。そして、多様性の時代から、子の成長を重視し、一人一人の個性を大切にするため、子どもの発達に合わせた遊具の購入や教具の設置を中心に次年度は取り組んでいく。
2	安全管理 安全対策	災害等の緊急時に備えて、園の危機管理マニュアル等を職員間で共通認識し、意識の向上やマニュアルの改善に努め、避難訓練を様々な災害をイメージして行うようにする。 園舎内や園舎外すべての清掃や整頓をし、危険なところがないか、老朽化が進んでいる所がないか等を、確認をする。 保護者へは、不審者発生に備えるため、インターホンやネームプレート着用ルールの徹底を行う。そして安全対策として駐車場事故防止のための注意喚起を継続して行う。また、バスカメラ、園庭見守りカメラ、2歳児クラスの午睡センサーの導入を次年度は安全対策の観点から行っていく。
3	教育行事	行事に追われないように、行事の見直しかつ、行事の充実を目指す。次年度は今年度の反省を踏まえた内容にし、個人差が出る教育内容については配慮や工夫をしていくようにする。 青梅ならではの自然に触れ合う機会や、地域の方々との交流する機会を設ける。また、行事内容をお便り等で分かりやすく記載し、保護者と協力して子どもの理解へつなげる。

6. 学校関係者評価結果

- ・施設整備に対する安心感や、職員数の増加による安心感の声が多かった
- ・教育方針、保育内容を動画や参観を通して感じ、評価の声が多い
- ・園児が口にしていない給食の試食会の開催を希望したい
- ・先生方の数も増え安心した運営状況となっている。共働き世代の増加による預かり保育や延長保育事業の更なる発展と成長に期待する
- ・新たに取り組んでいる自園調理の評判をよく聞き、食育として新たな特色を築いていると感じる
- ・昔からある保育内容や行事を、行い方を現代に変えつつも残し、地域で見られることは喜ばしい
- ・子どもたちの声が聞こえ、広大な敷地での伸び伸びとした保育は幸せだと思う